

小石川植物園を守る会
再開の経過と今後の活動

2003年9月22日
小石川植物園を守る会：幹事会

「小石川植物園を守る会」は、16年前に環状3号道路(環3)の建設により植物園正門から御殿坂の上まで園の南東部が道路となる計画が浮上してきたときに、この計画から植物園を守るために1987年4月に結成されました。この重大な危機に直面して地域住民のみならず植物園を愛する多くの方々が会員となり、9000名以上の署名を集め、道路計画から植物園を守ることができました。

さらに4年ほど植物園を守る会の活動は続き、その後12年間ほとんど休眠状態でありましたが、本年8月に、植物園北西側に計画されたマンション建設による植物園の湧水への影響の可能性という情報が入り、「植物園を守る会」再開への動きが始まりました。

1987年当時の会長鈴木さんをはじめ、会の運営に携わった方々の多くが物故されておりましたが、幸いなことに、当時の守る会の会報その他「書類」と「運営費」を保管されていた高柳さんから引継ぎのお申し出があり、再開の運びとなりました。

8月25日「小石川植物園を守る会」再開のための準備集会において「再開のための世話人会」が発足し、9月4日に高柳さんより引継ぎを受け、「再開のための世話人会」は「幹事会」と改称して、「小石川植物園を守る会」は再開しましたが、本日の集会をもちまして名実ともに正式の再開となります。

小石川植物園は、都心に残る貴重な自然というだけでなく、歴史的・文化的・学術的にも極めて重要な価値を持っています。

植物園に関わりのある方々、植物園を訪れたことのある方々の多くが、六義園や後楽園などとは異なる「良さ」と「価値」、「植物園への思い」を熱く語っておられます。この「思い」は、学者、文化人、文筆家の記述にも多く残されております。

またこのことは、植物園が文京区の保育園、幼稚園、小学校の野外活動(遠足)に頻繁に利用され、いつ行っても子供たちの声が聞こえることにも現れています。

今回の地下住居と地下駐車場の建設が、植物園にどのような影響を与えるかについては情報が極めて不足であるといわざるを得ません。9月17日に、応用地質研究所から井戸の水位は12メートル以下であり、構造物が井戸水に影響を与えるおそれはないという報告書が出されましたが、以下にあげる問題点には全く触れられていません。またこの報告書では、構造物が不透水層(関東ローム層)を貫通して下の透水層に達することを明瞭に示していません。これらに関しては小倉先生から詳しいお話をうかがえると思います。

- * 建設予定地およびその周辺の地形と地下水脈に関する情報の不足
- * 次郎稲荷の湧水および総合研究博物館分館(旧医学校本館)北東側の湧水と建設予定地との標高差、これらの湧水への影響

- * 地下に浸透する雨水の減少の可能性
- * コンクリートからの浸出物の可能性
- * 工法が不明であり、凝固剤等の使用の有無、使用された場合の影響
- * マンションの耐用年数、その後の改築時の掘削による影響

また、東京都は防災指針の中で、大震災時には人命救助最優先のため3日間は給水が行えないので、1日につき一人当たり6ℓの水を蓄えておくように勧告しています。

事業者側は、湧水に影響が出たら工事を中止して対策を立てると言っておりますが、影響が出たら完全に元へ戻すことは不可能でありすでに手遅れと言わざるを得ません。したがって、事前に十分な調査と科学的な検証を行うことが不可欠であると考えます。

将来環3道路計画が再浮上する可能性は消えていませんが、現時点では、地下9メートルにも達する地下住居と地下駐車場の建設の問題に的を絞り、「小石川植物園を守る」という目的のために様々な活動を行いたいと考えております。

今後も、植物園当局はもとより、植物園後援会、東大理学部、東大施設部、文京区の諸機関、等々と連絡をとりながら、文京区をはじめ全国の植物園に関心のある識者、研究者等にも活動への支持を求め、「小石川植物園を守る」活動を続ける所存であります。

再開のための世話人会は6名で発足しましたが、現在は会長以下幹事11名、オブザーバー3名で運営に当たっております。人も知恵も不足しておりますので、幹事として運営に参加して頂ける方、その他いろいろな面で力を貸して頂ける方をお待ちしております。幹事としてあるいは文書の印刷・配布、情報の収集などご協力頂ける方は、掃りがけに受付の協力者名簿にご記名下さい。

またこの間、多くの個人・団体の皆様から物心両面にわたるご援助を頂いております。あつく感謝申し上げます。

今後の活動内容

- ① 情報の収集と交換、伝達
- ② 植物園、東大、文京区、住友不動産等への
 - A. 電話および直接交渉
 - B. 手紙・ハガキ
 - C. メール
 - D. ホームページへの書き込み
- ③ 識者、研究者等への働きかけ
- ④ 知人・友人への情報の伝達と協力依頼。
- ⑤ 署名集め
- ⑥ その他

	幹事会の活動概略		各所の動き
		8.10	東京農工大小倉名誉教授、植物園に対し、マンション計画に伴う園内の湧水・地下水環境への影響評価の実施を依頼
8.25	「小石川植物園を守る会」再開準備集会		
		27	毎日新聞掲載“16年ぶりに「守る会」復活”
9.1	邑田植物園園長、三浦事務主任訪問		
		9.2	朝日新聞掲載“植物園異例の申し入れ”
3	植物園・三浦事務主任訪問	3	文京区環境対策課・防災課から住友不動産に対し、植物園の地下水への事前影響評価を実施するよう要請文書が出される
4	「小石川植物園を守る会」再開	4	毎日新聞掲載“区が業者へ影響評価求める”
			朝日新聞掲載 “ ”
9	東京大学工学部花木教授訪問	9	区議会代表質問「小石川植物園とその隣地の住友不動産のマンション建設について」高畑久子区議
		10	区議会代表質問「マンション建設が小石川植物園に与える影響について」田中和子氏区議
12	東京農工大小倉名誉教授訪問		
13	9/22集会のお知らせ6000枚作成配布開始、ポスター作成		
14	植物園門前で集会のお知らせ配布		
15	”		
16	集会のお知らせ2500枚作成、配布		
	建設予定地周辺のボーリングデータ収集		
	東京大学理学部事務局に連絡／理学部長との面談を要請		
17	住友不動産の工事説明会に参加		
	各党区議・区役所各課に集会のお知らせ配布		
18	東京大学内各所にお知らせ配布		
19	建築基準法・都市計画法専門現弁護士 荒秀氏訪問		
	小石川植物園後援会訪問		

小石川植物園を守る会連絡先(臨時)

tel/fax 03-3946-0589(昼) tel 03-3946-8832

112-0011 文京区千石 1-20-24 小石川植物園を守る会事務所(臨時)

関係諸機関電話番号等

小石川植物園 3814-0294 fax 3814-0139 〒112-0001 文京区白山 3-7-1

東京大学 3812-2111(代表) 〒113-0033 文京区本郷 7-3-1

理学部

植物学教室 fax 3814-2583

施設部

文京区 3812-7111(代表) 〒112-0003 文京区春日 1-16-21

都市計画部指導課 5803-1237(建築紛争担当)

建築課 5803-1262

資源環境部環境対策課 5803-1259(庶務) 5803-1260(指導) 5803-1261(調査)

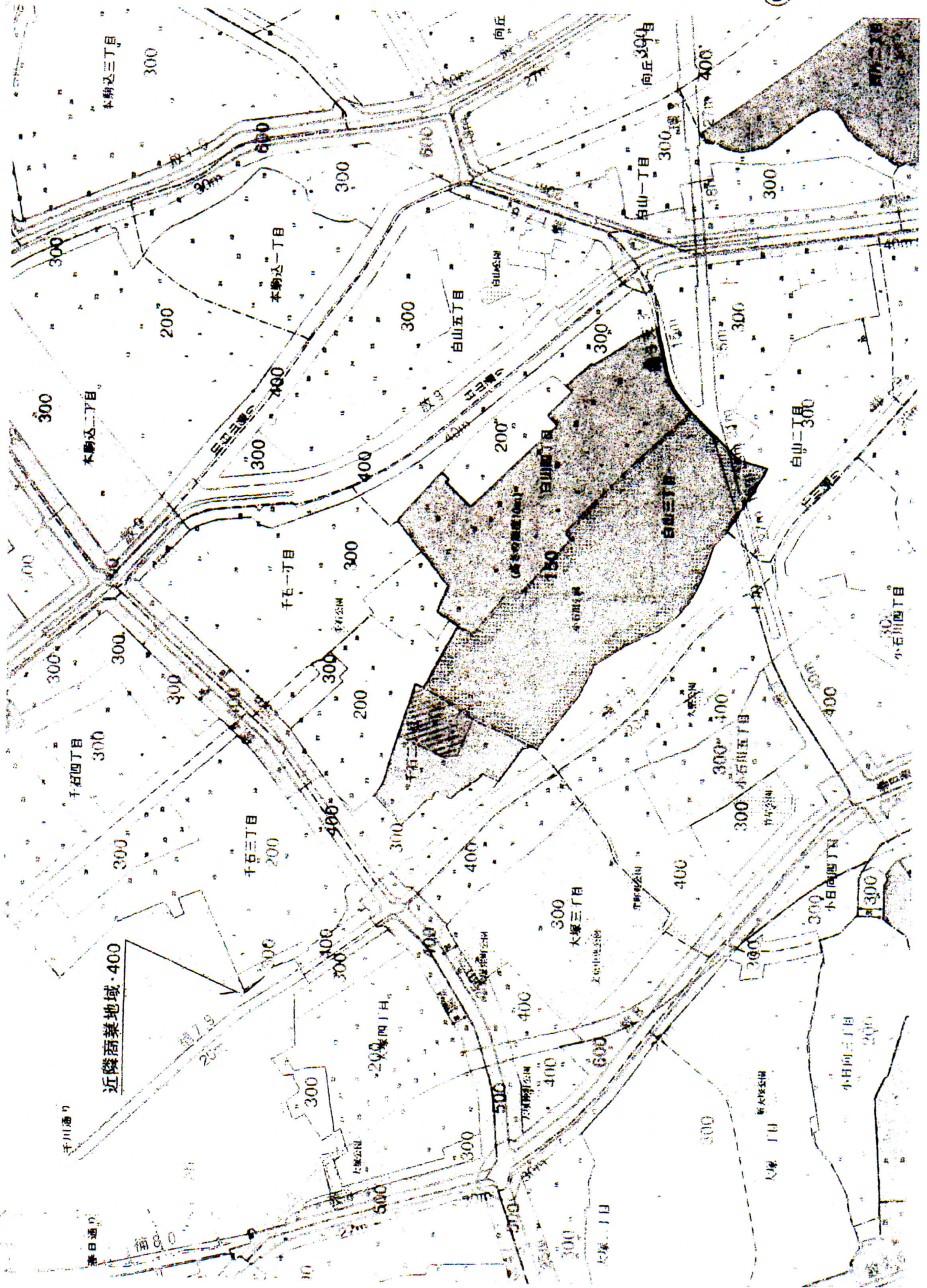
総務部防災課 5803-1179

住友不動産株式会社 3346-8890(代表) 〒163-0820 新宿区西新宿 2-4-1

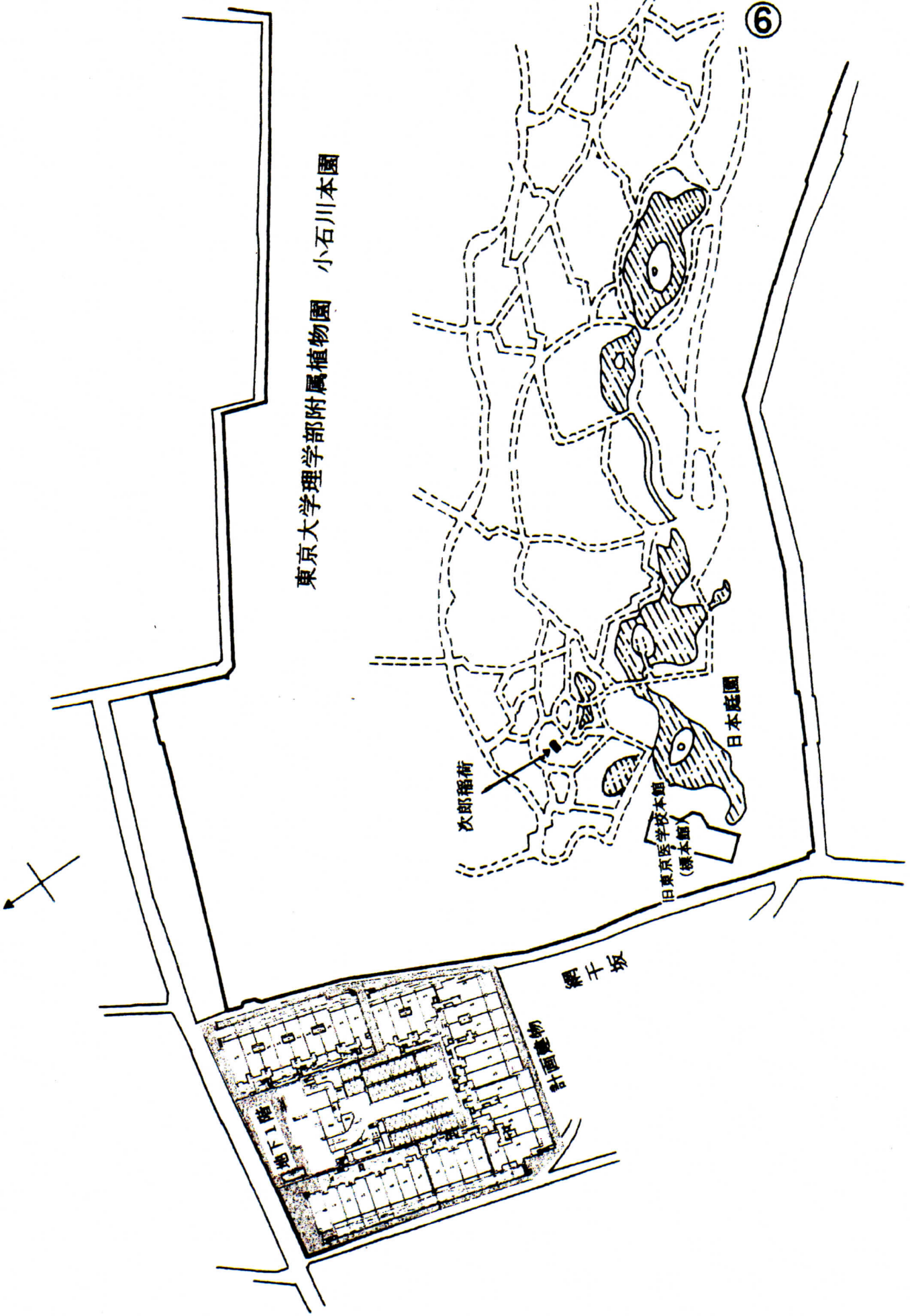
マンション事業本部東京開発管理部 3346-8892 (担当: 田島)

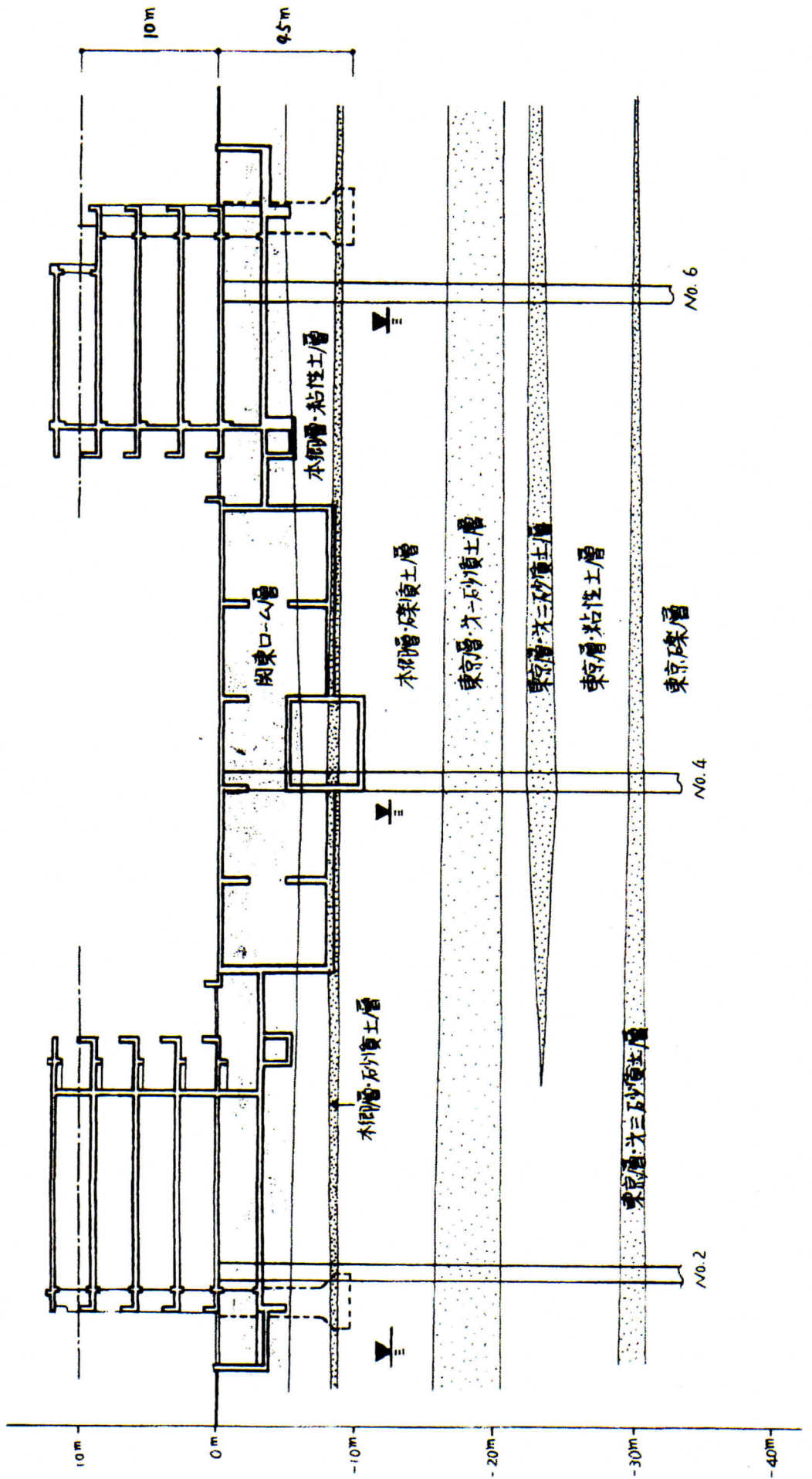
株式会社協立建築設計事務所 3572-4493 〒104-0061 中央区銀座 7-10-16

株式会社イム都市設計一級建築士事務所 3303-2400 (担当: 武藤、高瀬)



東京大学理学部附属植物園 小石川本園





平成15年9月5日

住友不動産株式会社

マンション事業本部 東京開発管理部長

田 尻 正 明 様

文京区役所資源環境部

環境対策課長 中村雅則

文京区役所総務部

防災課長 八木 茂

千石2丁目マンション建設計画に伴う小石川植物園の
湧水及び地下水への事前影響評価の実施等について（要請）

多くの人に親しまれる小石川植物園は、湧水及び地下水の恩恵を受けた貴重な動植物の環境であるとともに、震災時における地域住民の防災拠点になっており、関東大震災においても小石川植物園内の湧水及び地下水が消防水利等に活用された実績もあり、マンション建設計画に対する地域住民の関心は非常に高い状況にあります。

これまでの貴社が文京区環境対策課に対して行った説明では、マンション建設が及ぼす小石川植物園の湧水及び地下水に与える影響が明らかにされておりませんので、建設工事を着工する前に事前の影響評価を実施し、その結果を速やかに本区に報告されるとともに、地域住民に説明されますよう要請いたします。

小石川植物園の湧き水や地下水は大丈夫か

文京区がマンション建設業者へ

影響評価の実施求める

文京区は3日、同区マンション建設を計画する住友不動産に、接する東京大学付属小石川の大規模な民間マンションに隣接する小石川植物園の湧き水や地下水の

水の影響について事前に影響評価を実施し、区に報告するよう求める要請文を手渡した。

同園は、1973年の関東大震災では多くの避難民が同園に押し寄せ、湧き水や池の水を活用した。現在は、都の広域避難場所に指定されている。計画地は第一種低層

住居専用地域で、道をはさんで同園の北西側に位置する。地上4階、地下1階建てで5棟約200戸が建設される計画で、地域住民は「地下深く掘るため地下水脈に打撃を与える。植物園や地下水への悪影響は必至」と反発し計画の大幅変更を求めている。

区は要請文で「震災時の地域住民の防災拠点になつており、関東大震災でも湧き水、地下水が消防などに活用された実績があり、地域住民の関心は非常に高い」と指摘。そのうえで、業者のこれまでの説明では湧き水、地下水への影響が明らかにされていないため、工事着手前に事前に影響評価を実施し、その結果を区に報告し、地域住民にも説明するよう求めている。

文京・マン
シヨ
ン建設

「植物園に悪影響心配」

16年ぶりに地下水の流れ阻害と「守る会」復活

文京区千石2に住友不動産が計画中の大規模マンション建設計画が、敷地の南東側に隣接する小石川植物園の湧き水や地下水脈に重大な影響を与えかねないとして、業者や地元住民らが危機感を強めている。同園については、87年に敷地内を通る道路建設計画が持ち上がり、地元住民が撤回させた経緯がある。再び園の環境への悪影響が懸念される事態に、住民らは25日夜、かつての活動母体「小石川植物園を守る会」を16年ぶりに再開した。

【福田千代】

マンション計画に反対する地元住民らの集まり「千石の安全と環境を守る会」（吉田哲男代表）は、同園に水を供給する

地下水脈への影響を懸念していた。同計画を知った同園後援会委員で東京農工大名誉教授の小倉紀雄さんも、マンションの地下構造部が地下約8〜10メートルにある深層に達し地下水の流れを阻害する」と指摘する。小倉さんは「植物園内

の貴重な湧き水・地下水環境に重大な影響を与えらる」として、同園の福田園長あてに区や業者に対し、詳細な調査と結果の公表、計画変更の申し入れをよう求める書面を出した。

これを受け、87年以後運動を休止していた「小石川植物園を守る会」の当時のメンバーの一人、渡辺秀康さん(77)が呼びかけ人となり、会が再開することになった。設立会合には渡辺さんら約70人が集まった。「首肯されたことを残す。

一方、同社は同園と影響が出た場合の対策について協議を行っている。
【鈴木玲子】

毎日新聞 (2003年8月27日)

街が 変わる

マンション計画に反対する地元住民らの集まり「千石の安全と環境を守る会」（吉田哲男代表）は、同園に水を供給する

地下水脈への影響を懸念していた。同計画を知った同園後援会委員で東京農工大名誉教授の小倉紀雄さんも、マンションの地下構造部が地下約8〜10メートルにある深層に達し地下水の流れを阻害する」と指摘する。小倉さんは「植物園内

の貴重な湧き水・地下水環境に重大な影響を与えらる」として、同園の福田園長あてに区や業者に対し、詳細な調査と結果の公表、計画変更の申し入れをよう求める書面を出した。

これを受け、87年以後運動を休止していた「小石川植物園を守る会」の当時のメンバーの一人、渡辺秀康さん(77)が呼びかけ人となり、会が再開することになった。設立会合には渡辺さんら約70人が集まった。「首肯されたことを残す。

マンション開発会社

80年前の関東大震災で多くの避難民を救った東京大学付属小石川植物園(東京都文京区)の井戸や池の水の行方が、隣接地のマンション建設計画で心配されている。同園は、工事で水量が減るなどの影響を受けた場合、回復措置をとることを求める異例の申し入れをした。今も震災時の緊急用水に指定されている貴重な水源。業者側も要請を受け入れる方針だ。

井戸水減れば回復を

関東大震災「貴重」異例の申し入れ

同園は約16万2千平方メートル。震災時には約3万8千人を収容できる広さだ。東京大によると、1923(大正12)年9月1日に起きた関東大震災の際には避難してきた約3万5千人が押し寄せ、江戸時代から使われていたこの井戸が貴重な水源となったという。

北西の隣接地にマンション建設を計画しているのは住友不動産。敷地面積は約1万平方メートル。地上4階地下1階建てで、約200戸が入る。計画では地下約9メートルまで掘削し、東京大によると、同社のボーリング調査結果では、井戸の地下水は主に地下20メートル深い地点を流れているとみられるという。

井戸水の行方が心配されている小石川植物園。手前の更地部分がマンション予定地(東京都文京区)。本社へりから

東京大付属小石川植物園 日本の近代植物学発祥の地とされる。イチヨウの種子発見の木や万有引力の法則発見のヒントになったニュートンのリンゴの木の接ぎ木、ソメイヨシノの原木がある。江戸時代初期に築園として開かれ、明治以降、東大の付設施設。約1400種の樹木、1500種の草花があり、有料で一般公開されている。



東大小石川植物園

小石川植物園 隣にマンション

「地下水への影響調査を」

文京区 建設業者に求める

防災用水にもなっている東大付属小石川植物園(文京区)の井戸や池の水が、隣接地のマンション建設で影響が心配されている問題で、区は3日、業者の住友不動産の担当部長を区役所に呼び、植物園の地下水への事前影響評価を実施するように文京区に要請した。区は現時点での住友側からの説明では、影響がどうかは分からないとしており、工事の本格工前に調査の実施とその結果を区に速やかに報告するよう求めている。

住民「守る会」結成へ

区によれば、7月ごろに2回、住友側から工事の地下水への影響の可能性についての説明を受けた。それによると、マンションの掘削は地下9メートルまで打つが、地下水は12・5メートルの深さを流れており、おそらく問題は無いとの説明だった。住友側は工事用地で観測井戸を二つ掘るなどしている。しかし、区は工

東大側は池付近にも観測用の井戸を掘るよう要請している。

また、近くの住民らは近く、「植物園を守る会」を結成する予定。地元町会もたつた発起人の渡辺秀康さん(77)は「何かがあつてからでは遅い。マンションの地下一階部分の工事はやめてほしいと業者に要請するつもりです」と話している。

事がすぐに始まれば、この間で防災協定が結ばれただけでは事前の影響調査としては不十分とみており、専門家の意見を聞き、必要とした環境影響調査を実施するよう要請した。区によれば、区の要請に対して住友側は「回答すること述べた」といふ。住友側は数日前に工事に着手したが、本格的な工事には至っていない。この井戸は、東大と区が心配されているという。

小石川植物園ピンチ



部内の数少ない緑地、京大小石川植物園。点線部分に道路、中央手前の広場に超高層マンションの計画がある

＝朝日新聞社ヘリコプターから

「道路」と「高層マンション」の計画

62. 3. 26
F4

敷地内に樹の広がる道路建設、周辺の超高層マンション計画
……、高層マンションのピンチに直面する都心の緑、文京区の京大

住民らが「守る会」結ぶ

環境変化の心配が燃えたのは、昨年、文京区が植物園の東部の敷地に高さ約三百メートルの超層計画を公認してから。同区地域振興計画協議会（藤村英一市長）が「区内には緑地を減らすのが少ない」として、白紙撤回を求めた。その結果、同区から約三百メートルの小石川四丁目、民間不動産業者が高さ八十メートル、四階建てのマンションを計画。建設された。植物園は今年、千歳線敷設が白紙を許すという。

このため、植物園の青楓集会所は昨年、二一研究者の立役「から」道路建設区に対して、二九からの計画が周辺の緑地に悪影響を及ぼす、調査研究施設としての価値を損なう、とする陳情書を提出した。

「守る会」は、付近の町会、町会やマンション反対団体代表、主婦のほか植物研究者、都市計画家約二十人が発起人となり、二月二十六日午後五時、同区田山四丁目の白石公園で開き、発起人を明く。参加者の一人、元植物園長の鈴木四郎が

会名は「日常生活に緑の恩恵を受けてくれている植物園を保護するために『緑の守る会』としたい」と、植物園の現状を語り、緑の価値を改めていふ計画だ。

同会には六十年、二万五千円、十五人九人が入会した。この八割を中学生や高校生、主婦、子どもたちを引継ぎとして活動している。同会は文京区小石川新八郎地区は二区で、緑地も木々も少ない。同会は「同会は、緑の価値を高め、周辺住民の生活水準を上げたい」と活動している。

「守る会」は、緑地の参加を呼びかけ、植物園周辺の田山四丁目、鈴木四郎、鈴木四郎の

京大植物園のピンチに直面する都心の緑、文京区の京大